

平成19年 3 月26日発行

発行：学校法人皇學館
編集：法人本部総務課

TEL0596・22・6308
E-mail : soumu@kogakkan-u.ac.jp

皇學館学園報

第11号

■伊勢学舎

[法人本部・大学院・専攻科・文学部]
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地
TEL0596・22・0201(代) FAX0596・27・1704

■名張学舎

[大学院・社会福祉学部]
〒518-0498 三重県名張市春日丘7番町1番地
TEL0595・61・3351(代) FAX0595・61・3350

●インターネットホームページ

<http://www.kogakkan-u.ac.jp>

記念館の地鎮祭を斎行

会議や茶会が開ける場として十二月に完成予定

本学では神宮皇學館時代の遺構であり、昨年八月に国の登録有形文化財に指定された記念館を、「創立百三十周年・再興五十周年記念事業」に関連する事業の一つとして移転・改修工事を行うことを決定した。今年十二月の完成が予定されており、これに先立ち、二月二十八日に上杉千郷理事長はじめ学校、工事関係者が参列のもと、建設予定地で地鎮祭が執り行われた。

建築工事の安全を祈願

地鎮祭は二月二十八日午前十一時より、建設予定地である旧第一駐車場（記念館の東側）にて執り行われた。上杉理事長や伴学長をはじめとする学校関係者、ならびに工事関係者が見守るなか、斎主を務める本澤雅史助教が祝詞を奏上。続いて、敷地祓・散供、草刈初儀、穿初儀、参列関係者による玉串拝礼などが

大正八年に本館として移築

記念館は、本学の前身である神宮皇學館が、宇治から現在地である神田久志本町（倉田山）に大正七年に移転した際、翌八年に「本館」として移築されたものである。同校は昭和十五年に神宮皇學館大学となるが、昭和二十一年に廃校。敷地・校舎はいったん伊勢市立中学校に転用されたものの、その後、再び本学所有の建物として利用され

工され、今年十二月の完成をめざす予定だ。

てきた。

時は過ぎ、昭和四十七年、本学では「創立九十年・再興十年」の記念事業の一つとしてこの「本館」を記念館として保存すること企画。同年十月二十三日に現在地に移築、改修し、記念館兼祭式教室として使用してきた。しかし、耐震上の問題が指摘され、平成十六年九月末以降は教室としての利用を停止し、今日に至っている。

大正期の意匠を今に伝える

神宮皇學館時代の遺構として卒業生や本学関係者にとつて忘れがたい存在である記念館は、建築史の観点からも重要な文化遺産である。

たとえば、正面玄関の車寄せに配された美しい曲線を描く唐破風屋根。堂々とした和の趣きを漂わせながらも、ガラス窓を組み合わせた洋風の要素をつましく馴染ませている。

建物の内部には事務室、貴賓室、館長室などの用室が設けられており、昭和四十七年の移築、改修時に当初の間仕切りや天井は撤去されたが、館長室に施されていた木製のカーテンレールや床

の間に当時のまま保存されるなど意匠が維持されている。また、建築に関連する資料として棟札（皇學館大学神道博物館所蔵）が残っており、主任技師山口直昭、監督上田萬治郎、武田道晴、長嶋榮次郎、請負人野呂廣吉が判明している。ちなみに、山口直昭は赤坂離宮や東京裁判所の建築に参加した設計技師で、当時の日本の洋建築における第一人者であったという。

母校のシンボルとして

移転・改修後は、茶道・華道等日本の伝統文化教育の場として、また、卒業生や保護者、教職員の懇談の場として活用する方針だ。旧来の場所からの移動距離もわずかで、建物の周辺に植栽されている桜や神宮杉などの並木も見られる。とくに、北側に植えられていた樹

齢四十年超の桜並木は春になると満開になり、懐かしい光景として卒業生の胸に深く刻まれていることだろう。母校のシンボルとして伝統と威厳を保ちながらも、新たな役割を担う施設として生まれ変わる記念館。十二月の完成が待たれるところである。



地鎮祭終了後の直会は終始和やかな雰囲気包まれた。



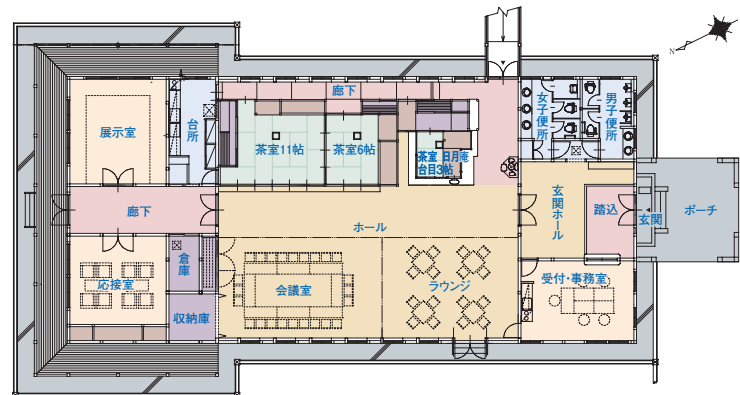
会場には学校関係者をはじめ工事関係者や神社界から多数ご参列いただいた。



盛砂に差してある忌草を鎌で刈る「草刈初儀」を行う上杉理事長。



敷地祓・散供を行う斎主。



建築概要

茶室	3室	受付・事務室	1室
会議室	1室	男子便所	1室
展示室	1室	女子便所	1室
応接室	1室	台所	1室
ラウンジ	1室		



神宮皇學館時代の雰囲気を今に伝える記念館。

平成十八年度 卒業奉告祭

七十名の神職が巣立ち

春の訪れを告げる生暖かい風が吹き抜けた二月十八日、平成十八年度文学部神職課程卒業奉告祭が厳かに執り行われ、神職課程履修者七十名が神職の担い手として母校を巣立った。昨年九月に完成した祭式教室にて斎行された。祭典には、祭式研究部や雅楽部の学生など有志約三十名が祭員や伶人・舞人として奉仕。本澤雅史神道学科助教授をはじめ教職員が見守るなか、すべての神職課程を無事終了したことを奉告した。

四年間の集大成を披露

午後三時、厳肅な雰囲気の中、始まった奉告祭は、修祓に続き降神の儀、献饌、祝詞奏上、奏楽、玉串拝礼などすべての行事次第が滞りなく進行し、午後三時半に終了した。祭典は祭員や伶人ほもとより齋主に至るまですべての奉仕が学生によるものである。神職課程の授業では力リキュラムのなかで実際の祭典奉仕を想定しての演習を豊富に取り入れており、今回無事に遂行できたことは、学生たちの日頃の学習や練習の成果が遺憾なく発揮されたものといえる。左舞の代表的な走舞「蘭陵王(陵王)」を奉納した竹原正登さんは雅楽部に所属。伊勢神宮や愛・地球博で舞台に立った経験があり、緊張しながらも持ち味である柔軟性を生かしたしなやかな舞を奉納した。卒業後は大阪にある神社への奉職が決まっており、「神楽は神様と人との共通の言葉。形を守りながら自分らしさも表現できる舞人をめざしたい」と希望を語った。



無事に齋主の役割を果たした安堵感からか、ほっとした表情の長田さん。卒業を迎えられたことを「祖母がいちばん喜んでくれた」そうだ。

齋主を務め、祝詞を作文・奏上した長田圭介さんは「授業では技術だけでなく、心構えの大切さを教わりました」と倉田山で学んだ四年間を振り返り、

感極まり涙ぐむ学生も

奉告祭終了後、参列者全員が神殿前で本澤助教

き放たれた様子とともに学んだ仲間たちと談笑する光景が見られ、なかには感極まったのか涙ぐむ学生もいた。

卒業した学生たちはこの春から神職として奉仕する者、大学院へ進学する者など慶びも冷めやらないうち全国各地へと赴



滞りなく卒業奉告祭を終え、晴れ晴れとした表情の学生たち。全体での記念撮影の後、それぞれが本澤先生や友達と写真を撮り合う光景が見られた。

第62回 神宮式年遷宮奉賛記念講演会

1450名が熱心に聴講

開催報告



本学の創立百三十周年・再興五十周年記念事業の一環である「第六十二回神宮式年遷宮奉賛記念講演会」の平成十八年度講演会が終了した。

八月の金沢講演会を皮切りに京都、大分、熊本と合計九会場にて、統一テーマ『伊勢の神宮を語る―日本文化の源流を考える―』のもと開催され、それぞれの会場では、本学教員が講師を務め、DVDの上映も織り交ぜて神宮・遷宮についてわかりやすく説明をした。参加者の方々は熱心に聴講



神宮に対する正しい認識を促すとともに、神宮への崇敬を喚起するものとして全国規模で記念講演会が行われ、各地で盛況を博した。

されて質疑応答も活発に行われ、予定時間を超過した会場もあった。今年度最後の講演会は三月八日に青森市において「財団法人伊勢神宮式年遷宮奉賛会青森県本部設立大会」にあわせて伴学長により行われ、今年度の参加総数は千四百五十名であった。また、来年度の上平期の講演会開催は左記のとおり愛知、兵庫にて開催の予定である。以後も順次計画しており、ひとりでも多くの方々に伊勢の神宮と遷宮のことを理解していただく機会となれば幸いである。

平成19年度 講演予定

会場 熱田神宮(文化殿) 14:00~16:00

- 第1回 「伊勢の神宮と日本人」
5月19日(土)【講師】伴 五十嗣郎学長 【DVD解説】岡田芳幸 准教授
- 第2回 「伊勢の神宮と尾張・三河」
6月16日(土)【講師】岡田 登 教授 ※講演のみ
- 第3回 「神宮式年遷宮の歴史」
7月14日(土)【講師】井後政晏 教授 ※講演のみ
- 第4回 「伊勢の神宝・御装束の美と古神宝」
8月18日(土)【講師】岡田芳幸 准教授 【DVD解説】同准教授
- 第5回 「伊勢神宮の祭りと言葉」
9月15日(土)【講師】本澤雅史 教授 【DVD解説】同教授
- 第6回 「神宮の遷宮と芸能」
10月20日(土)【講師】奥野純一 教授 【DVD解説】岡田芳幸 准教授

会場 兵庫県神社庁(生田神社会館) ※講演のみ 14:00~16:30

- 第1回 「神々と日本人 ―いのちと血統の連続―」
7月15日(日)【講師】伴 五十嗣郎学長
- 第2回 「旅にみるお伊勢参り」
8月 5日(日)【講師】岡田 登 教授
- 第3回 「神社の誕生 ―その創祀と発展―」
8月19日(日)【講師】渡辺 寛 教授
- 第4回 「神を祭る言葉 ―伊勢神宮の祈り―」
9月 2日(日)【講師】本澤雅史 教授
- 第5回 「美し国の悠久の祈り」
9月 9日(日)【講師】清水 潔 教授

会場 埼玉県立歴史と民俗の博物館 13:30~15:30

- 第1回 「伊勢の神宮と日本人」
10月21日(日)【講師】伴 五十嗣郎学長 【DVD解説】岡田芳幸 准教授
- 第2回 「伊勢の神宮と武蔵 ―武蔵人の伊勢信仰―」
10月28日(日)【講師】岡田 登 教授 ※講演のみ
- 第3回 「神宮の神宝と御装束 ―日本人の美意識の根源を考える―」
11月11日(日)【講師】岡田芳幸 准教授 【DVD解説】同准教授

統一テーマ・『伊勢の神宮を語る―日本文化の源流を考える―』



上／伶人の奏でる古式ゆかしい雅楽の音色にあわせて勇壮な舞が奉納された。下／新天地でも舞楽を続けられることが決まっており、精進を重ねたいと語る竹原さん。

創立百三十周年・再興五十周年記念事業寄付者芳名⑩

創立百三十周年・再興五十周年記念事業募金につきまして、学内外の方々から変わらぬ励ましの声とともにその後も多くのご芳志をいただきました。みなさまのご理解とご好意に對して心より厚く御礼申し上げます。ご協力いただいた方々の芳名を掲載させていただきます。事業活動の一層の充実をはかるべく、今後ともどうぞよろしくお願い致します。芳名掲載につきましては、一月三十一日までの到着分とさせていただきます。

創立130周年・再興50周年記念事業寄付金進捗状況			
平成19年 1 月31日現在			
区 分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗 教 界	524	700,857,000	477,710,000
館 友	567	67,616,000	57,546,000
篤 志 家	37	27,690,000	27,490,000
尊 の 会	1,290	46,545,000	46,545,000
企 業	97	56,575,000	49,005,000
本法人関係	232	54,757,000	44,995,000
合 計	2,747	954,040,000	703,291,000

宗教界（神社界）

岩手県 岩手県神社庁様 （盛岡市八幡町） 二百万円	茨城県 茨城県護国神社様 （水戸市見川） 二十万円「十万円増額」	栃木県 日光東照宮様 （日光市山内） 一千万円	群馬県 群馬県神社庁新田支部様 （太田市世良田町） 十万円	千葉県 玉崎神社様 （旭市飯岡） 二十万円「十万円増額」	神奈川県 鶴岡八幡宮様 （鎌倉市雪ノ下） 一千万円	群馬県 群馬支部様 （高崎市金古町） 二十万円	寒川神社様 （高座郡寒川町） 五百万円
---------------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------	---------------------------------	-------------------------------	---------------------------

館友

岡山県 木鍋八幡宮様 （瀬戸内市長船町） 五万円	滋賀県 滋賀縣護国神社様 （彦根市尾末町） 五万円	島根県 日御崎神社様 （出雲市大社町） 三万円	八重垣神社様 （松江市佐重） 三万円	岡山県 八幡神社様 （出雲市大社町） 三万円	岡山県 八幡神社様 （出雲市大社町） 三万円	岡山県 八幡神社様 （出雲市大社町） 三万円	岡山県 八幡神社様 （出雲市大社町） 三万円	岡山県 八幡神社様 （出雲市大社町） 三万円	岡山県 八幡神社様 （出雲市大社町） 三万円
--------------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------

尊の会（保護者の会）

愛知県 三谷 剛史様 三万円	三重県 内山 昇様 一万円	大阪府 藤木 克巳様 十五万円	岡山県 高原 家康様 五万円	長崎県 寺田イ子様 二十万円「十万円増額」	岡山県 高原 家康様 五万円	長崎県 寺田イ子様 二十万円「十万円増額」	岡山県 高原 家康様 五万円	長崎県 寺田イ子様 二十万円「十万円増額」	岡山県 高原 家康様 五万円
-------------------	------------------	--------------------	-------------------	--------------------------	-------------------	--------------------------	-------------------	--------------------------	-------------------

篤志・その他

本法人関係

学校法人皇學館教職員 五万円	打田 一代様 五万円
-------------------	---------------

企業

三重県 株式会社 三百万円「五十万円増額」 （株）伊藤工務店様

皇學館大学に寄贈

明治の空気伝える大礼服

明治時代前期に官僚・政治家として活躍した井上毅着用のものとして「大礼服」が本学に所蔵されたこととなった。このほど寄贈をお申し出くださったのは、貸衣装の老舗「錦屋」を営む勝田浩一氏。本学の上杉千郷理事長と親交が深い縁から、「学生の教育や知識の向上に役立ててほしい」と御提供いただいた。今回の資料に含まれるのは上衣や袴（スポン）のほか、帽や剣など。保存状態がすこぶるよく、近代日本における洋装史や爵位制度の一端を窺い知ることができる貴重な資料だ。



大礼服の上下はともに上質の生地で作られており、帽子にはダチョウの毛が使われている。

文明開化の波にのって

和装から洋装へ

「大礼服」とは貴族や文官が宮中における重要な儀式の際に着用した最高の礼装を指す。古来より、参内する公家諸侯は衣冠をもつて正装とされてきたが、明治維新によってもたらされた欧米化



明治の雰囲気を感じてほしい

上杉理事長は「大礼服を身に付けられることそのものが栄誉であったと思う。誇り高く、名譽を重んじた当時の雰囲気が伝わってくるようだ」と感慨深い様子で語る。本学助教授であり神道博物館の岡田芳幸学芸員も、「単なる西洋の物真似で

日本の故実に基づいた大礼服

寄贈いただいた大礼服をみると、ボタンや袖口の金織文様が本家・イギリスでは月桂樹と樺の葉であるのに対し、桐花葉と日蔭葉になっている。



服に見入る上杉理事長（奥）と岡田学芸員。

であらう。



服や帽子、剣の仕立てには格式ある店が指名され、これを扱う職人も一流の者が選ばれた。

100名の汗と涙が舞い踊る

教育学科 第21回
卒業記念ミュージカル

オズの魔法使い ～ぼくらのなかのたからもの～



本番直前に行われた通し稽古での一コマ。毎年、市内の幼稚園児など小さい子どもが多く訪れるため、歌やダンスをふんだんに取り入れた楽しい舞台をめざした。



上/メインキャストの4人。左から竹中さん、太田さん、松田さん、柁屋さん。
下/カメラのチェックに余念がない会場班。

上/メインキャストの4人。左から竹中さん、太田さん、松田さん、柁屋さん。
下/カメラのチェックに余念がない会場班。



尾上先生。部員たちが決意を託した書初め作品の横で。

「全国制覇」を合言葉に猛練習

周囲のサポートも大きい。本学が掲げる「文武両道」の精神は保護者の間でも好意をもって受け止められており、部員たちの家族が応援会を兼ね鍋会を催すなど温かい目で見守ってくれる。また、新しい武道場の完成も近い。尾上先生はこうした状況に感謝しつつ、「もう一台マイクロスパスがあれば、遠征に出て経験を積むことができるんだが」とさらなる環境づくりの必要性を訴える。

期待を背負い、信念を抱き、「全国制覇」に向け日々稽古に励む部員たち。

全国大会は三月二十七日・二十八日の両日、愛知県春日井市で開催される。



尾上先生の指導を熱心に聞く部員たち。

本学文学部教育学科の学生百名による卒業記念ミュージカルが3月10日・11日に行われた。日頃の授業やイベントを通じて培った力を最大限に発揮する、いわば学生生活の集大成ともいえる一大イベントだ。第21回目を迎える今年の演題は『オズの魔法使い』。脚本をはじめ演技、ステージ運営、衣装、照明などすべて学生の手で創られた感動の舞台に、会場からは惜しみない拍手が送られた。今回は、本番を前に稽古に励む様子や、作品に込められた思いについて紹介する。

アメリカの童話作家ライマン・フランク・ボームによつて書かれた『オズの魔法使い』は、愛犬トットと一緒に魔法の国へと迷い込んでしまった少女ドロシーが、〈脳みそ〉を持ちたいかかし、〈心〉が欲しいブリキのきこり、〈勇氣〉を手に入れた弱虫ライオンとともに、それぞれの願いをかなえてもらうためオズの魔法使いの住むエメラルドの都をめざす冒険物語だ。この名作を通してどんなメッセージを伝えたいのか、実行委員長の内篤子さんは



辻内さん(左)と佐藤さん。

主人公ドロシーを演じるのは抜群の音量と歌唱力を誇る松田美穂さんだ。愛らしい雰囲気も役にぴったり。卒業後は保

百人百色の個性が輝く

育士への道が決まっていることもあり、子どもたちに喜んでもらえる作品にしたいと考え手を挙げたという。

語る。「作品の最後で主人公たちは魔法使いに授けられてはしまったが、みんなそれぞれ得意分野がちがう。この舞台は、そんなひとり一人の持ち味を発揮する場でもあるんです」。

サブテーマは「ぼくらのなかのたからもの」

マに「ぼくらのなかのたからもの」と掲げたのは、彼らのように誰にでも長所や良いところがあることをわかってほしくて」。

平成18年度 クラブ結果 11月

柔道部	
一月二十日	三重県高校柔道新人大会
男子団体の部	ベスト8位
一月二十七日	三重県高校柔道新人大会
男子個人の部	優勝
無差別級	優勝
中川 裕喜	優勝
渡辺 大志	3位
剣道部	
十一月十九日	県高校秋季剣道大会
男子団体の部	優勝
女子団体の部	ベスト8
十二月八日	県高校秋季剣道大会
男子個人の部	優勝
女子個人の部	3位
河井怜愛華	4位
弓道部	
一月二十日	県高校弓道新人大会兼全国選抜大会県予選
男子団体の部	優勝
男子個人の部	優勝
小嶋 剛史	優勝
清水 大毅	ベスト8
前田 太郎	ベスト8
バレーボール部	
十一月十八日	県高校バレーボール新人大会
男子部の部	準優勝
女子部の部	7位
卓球部	
十一月十八日	県高校卓球新人大会
男子部の部	優勝
女子部の部	3位
バスケットボール部	
十一月十三日	全国選抜大会県予選
男子部の部	ベスト8位
女子部の部	3位
一月二十八日・二十九日	三重県高校新人大会
男子部の部	優勝
女子部の部	2位
一月三十日	三重県卓球選手権大会
女子個人の部	3位
一月二十日	全国選抜大会
男子部の部	優勝
女子部の部	2位
全国選抜大会出場	
【個人】	卓球部 太田 怜子
【団体】	剣道部 男子 自転車 小河 康弘

二年ぶり五回目の出場 第16回 全国高等学校剣道選抜大会

皇學館高校男子剣道部が第十六回全国高等学校剣道選抜大会への切符をかけた三重県予選でみごと優勝し、二年ぶり五回目の出場を決めた。予選ではすべての試合が五対〇と負け知らず。その強さの秘密を、「目標を全国制覇」と決めたのがきっかけ」と、同部を率いる尾上誠一郎先生は分析する。

「このチームは本当に強い。夏ごろに、お前たちならやれんことはない、と声をかけてみたんです」。

尾上先生の言葉に発奮した部員たちは、以来、顔つきがガラリと変わり驚くほどの成長ぶりをみせた。「早く練習がしたいので、部員全員が道場まで走ってやって来る」と、主将を務める清水大毅くんも気持ちの強さが自然と行動に現われていた。

「全国制覇」を合言葉に猛練習。部員たちは、遠征に出て経験を積むことができるんだが」とさらなる環境づくりの必要性を訴える。

期待を背負い、信念を抱き、「全国制覇」に向け日々稽古に励む部員たち。

全国大会は三月二十七日・二十八日の両日、愛知県春日井市で開催される。